総務省国立研究開発法人審議会（第２５回）

１　　日　　時　　令和８年８月３日（月）13時00分～13時35分

２　　場　　所　　WEB会議にて開催

３　　出 席 者

（１）委員

橋本会長、藤野会長代理、生越委員、小野委員、末松委員、前原委員、森田委員

（以上７名）

（２）専門委員

牛尾専門委員、大森専門委員、小杉専門委員、小塚専門委員、小紫専門委員、篠永専門委員、富樫専門委員、永山専門委員、松永専門委員、村瀬専門委員、森井専門委員、八亀専門委員

（以上12名）

（３）総務省

布施田国際戦略局長、柴山官房審議官（国際戦略局担当）、

清水局付、寺岡技術政策課長、扇宇宙通信政策課長、

大西技術政策課技術革新研究官、内田技術政策課企画官、

浅川技術政策課課長補佐、佐々木宇宙通信政策課課長補佐

４　　議　　題

（１）　令和７年度及び第５期中長期目標期間における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価に対する意見（案）について

（２）　令和７年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価に対する意見（案）について

開　　会

【橋本会長】　では、ただいまから第２５回総務省国立研究開発法人審議会を開催いたします。本日は御多忙のところ御参集いただき、ありがとうございます。

本日は、会議室、オンラインのハイブリッド形式での開催でございます。

初めに、本日の会議の定足数の関係でございますが、委員７名中７名が出席されており、定足数を満たしておりますことを御報告いたします。また、専門委員１５名中１２名にも御出席いただいております。

それでは、事務局より配付資料の確認をお願いいたします。

【浅川補佐】　ありがとうございます。事務局の浅川でございます。

それでは、本日の配付資料を確認させていただきます。資料国研といたしまして２５－１と２、参考国研といたしまして２５－１から１０までお配りしております。オンラインの先生方には、ファイルを議事次第含めて１３個お送りしております。資料は画面投影もいたしますが、ファイルの破損、配付資料の抜け等ございましたら、事務局にお知らせください。

また、本日ハイブリッド形式でございますので、会場で御参加の先生方におかれましては、発言の際に手元のマイクをオンにした上で、オンラインの先生方にも分かるようにお名前をおっしゃってから御発言いただきますようお願い申し上げます。

事務局からは以上でございます。

令和７年度及び第５期中長期目標期間における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価に対する意見（案）について

【橋本会長】　それでは、お手元の議事次第に従って、議事を進めてまいりたいと思います。

まず、議題（１）令和７年度及び第５期中長期目標期間における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価に対する意見（案）について、事務局より説明をお願いいたします。

【浅川補佐】　まず本件につきまして、これまでＮＩＣＴ部会では、１０回にわたってＮＩＣＴからヒアリングを行った上で、２回の部会にて活発な御議論をいただきました。部会の委員、専門委員の皆様には多大な御尽力をいただきましたことを御礼申し上げます。ありがとうございました。

それでは、御説明に入ります。２ページ目を御覧ください。項目別の評定を総括表としてまとめてございます。ＮＩＣＴの評価項目としては１０項目に分かれておりまして、左上から、電磁波先進技術分野、革新的ネットワーク分野、サイバーセキュリティ分野、ユニバーサルコミュニケーション分野、右上、フロンティアサイエンス分野、№６のＢｅｙｏｎｄ５Ｇの推進、ここまでを中長期目標上、重要度高と設定してございます。加えて、分野横断的な研究開発その他の業務、業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項、その他業務運営に関する事項となっております。

項目別評価については、赤枠が令和７年度の、オレンジの枠が第５期中長期目標期間の評価となっており、さらにそのうち左側がＮＩＣＴの自己評価、右側がＮＩＣＴ部会で御議論いただきました審議会意見案となっております。評定の数としては、令和７年度においては、Ｓが４、Ａが２、Ｂが４、期間評価においては、Ｓが６、Ｂが４となっております。

項目別の評価を踏まえた全体の評定案の概要につきまして、３ページ目を御覧ください。まずは令和７年度におけるＮＩＣＴの業務の実績に関する評価に対する意見案でございます。全体の評定としては、Ｓとなってございます。

次に、評価のポイントとして、全体の評定に至った理由を記載しております。項目別評定は、Ｓが４つ、Ａが２つ、Ｂが４つであった。その中で重要度の高い５つの研究開発業務及びＢｅｙｏｎｄ５Ｇの推進については、６つのうち４つがＳであること等を勘案した結果、全体の評定をＳとしたとしてございます。

次に、主な評価項目・意見についてでございます。各分野の評価に至った事実について、一部を主な評価項目として記載しておりますほか、特にＮＩＣＴに期待することなどを明朝体で表記して記載してございます。これは、ＳかＡかという評定の結果を単に御提示するほか、Ｓであってもよりしっかりと取り組んでいっていただきたいことや、Ａであっても高く評価できるということがあるということで、ＮＩＣＴ部会においては評定を決するまでに活発に御議論いただきましたので、それらの趣旨を盛り込んでまとめさせていただいている次第でございます。

順次御説明させていただきます。１つ目の矢じり、電磁波先進技術分野について、ＭＰ－ＰＡＷＲでは、ＡＩナウキャストのリアルタイム提供を開始したこと、宇宙天気予報業務を継続的に実施したこと。複合型カップラーＨＯＥの製造プロセスを改良したことなどにより、Ｓ評定となっております。他方で、既存知見と連続性が強く、新規性・突出性までは認めにくいものや成果発信が弱いものがあるというコメントも付してございます。

２つ目の矢じり、革新的ネットワーク分野について、単一コア伝送による世界記録を達成したことや、世界初のマルチコア光ファイバ対応光交換ノードを実現したことなどにより、Ｓ評価となっております。その上で、国際会議での発表に加え、国際的な査読付き学術誌の論文として体系的かつ継続的に公表するという取組を進めることを期待としてございます。

次に、サイバーセキュリティ分野でございます。実践的な人材育成プログラムを着実に推進したこと、ＡＩ・ＬＬM活用研究の拡大やＮＳＤ、ＪＩＴ－Ｓｃａｎｎｅｒ等の技術開発をしたこと、ＤｅｅｐＰｒｏｔｅｃｔの社会展開を行ったことなどにより、A評定となっております。なお、A評定としていることについて、多方面で多くの業績が出ていることは高く評価できるとした上で、基本的に前年度までの方策の延長であり、第６期中長期目標期間においては、よりしっかりと取り組んでもらいたいとしております。

ユニバーサルコミュニケーション分野について、ＡＳＥＡＮ諸語の多言語ＬＬMに日本語データを学習させることで、ＡＳＥＡＮ諸語の性能も向上させたことや、大規模・高品質な日本語学習データを整備したことなどから、Ｓ評定としてございます。なお、着実に取組を進展させており、中には大規模データの整備等、高く評価できる一方で、前年度からの取組の延長でもあり、第６期中長期目標期間においては一層の取組を期待というふうにもコメントを記載してございます。

フロンティアサイエンス分野については、ショウジョウバエの脳神経回路を改変して本能行動のプログラムを書き換え、行動パターンの種間移植を世界で初めて実証したことなどを代表例として、Ｓ評定としてございます。

また、Ｂｅｙｏｎｄ５Ｇの推進については、国際標準化活動やMWC、大阪・関西万博等での発信及び異業種との連携に展開したことなどから、Ｓ評定としてございます。その上で、委託業務の成果を把握し、今後の社会実装につながる支援についてもしっかりと取り組んでもらいたいというふうにコメントを記載してございます。

最後の矢じり、その他として、知的財産について、外国特許の取得・活用及び海外企業への技術移転を強化することで、研究成果の国際的な社会実装等、知財収入の拡大につながることの期待、人材確保においては人材戦略のさらなる充実の期待についてコメントをまとめてございます。

続いて、４ページ目を御覧ください。こちらは第５期中長期目標期間における業務実績に関する評価に対する意見案の概要でございます。全体の評定としてはＳとなってございます。

評価のポイントといたしましては、項目別評定は業務の一部がＢであるものの、重要度の高い研究開発業務及びＢｅｙｏｎｄ５Ｇの推進についてはＳであることから、全体の評定をＳとした。としてございます。

主な評価項目・意見として掲載の各分野はいずれもＳ評定でございまして、以下のような項目を代表例として、部会では評価されてございました。

電磁波先進技術分野は、ＥａｒｔｈＣａｒｅ衛星の開発・打ち上げと実データの観測に成功したことや、宇宙天気予報業務に取り組んだことを評価する一方で、宇宙天気予報業務の成果は、データ提供・利用者連携の高度化にとどまること、自然光ホログラフィ等の単年度成果は、他の項目と比べて突出性が限定的で、成果発信の面でも改善の余地があり、一層の努力を記載というコメントもいただいております。

革新的ネットワーク分野については、マルチコア光ファイバが商用化フェーズに進展したとする一方で、国立研究開発法人として得られた成果をより広く継続的に社会へ還元し、研究コミュニティの知見として蓄積する観点から、主要成果については学術誌論文として整理・公表する取組を一定程度進めることを期待というコメントをいただいております。

サイバーセキュリティ分野については、実践的な人材育成プログラムを着実に推進したことや、サイバーセキュリティ観測・分析基盤を構築し、ＡＩセキュリティの研究領域を先導したこと。

また、ユニバーサルコミュニケーション分野については、大阪・関西万博も見据え自動同時通訳を実現したこと、世界最大規模となる高品質な生成ＡＩ学習用日本語データを整備し提供したこと。

また、フロンティアサイエンス分野について、深紫外ＬＥＤデバイスの開発を進め、従来にない応用を開発したこと。

Ｂｅｙｏｎｄ５Ｇの推進については、Ｂｅｙｏｎｄ５Ｇ公募型研究開発プログラムにおいて、プロジェクト評価が厳密に実施されるなど、制度設計・支援体制が確立することで、効率的かつ効果的な研究開発マネジメントを実施し、プロジェクトの成果創出に導いたことなどを挙げていただいております。

その他として、こちらでも国際的な知財収入の拡大や戦略的人材マネジメントの強化についてのコメントをまとめてございます。

５ページ目以降が意見書案の本体でございます。

６ページ、７ページ目が、令和７年度における総合評定となっており、今ほど御説明申し

上げた内容はこれの概要でございます。

１点、６ページ目の３ポツについて補足をさせていただきます。こちら、各分野についてのコメントは先ほど明朝体で表記した部分について御紹介してまいりましたが、最後の４行、下から４つのポツについて、これも部会での御議論を踏まえまして、ＮＩＣＴでの自己評価に係るコメントも記載してございます。

読み上げさせていただきますと、次年度の評価は第６期中長期目標期間の初年であることに鑑み、より適正な評価を行うために、ＮＩＣＴの自己評価の提出に際しては留意してもらいたいという点も記載してございます。

具体的には、Ｓ評価としている項目については、特に顕著な成果を挙げたと客観的に判断できる裏づけを、可能な限り定量的な情報とともに提示する必要がある。未達事象も含めた事実を記載する必要がある。中長期目標期間中に目標を大きく上回る特に顕著な成果を挙げているのであれば、目標及び計画の見直しや解釈も検討すべきであるというふうにまとめさせていただいております。

また、７ページ目以降には個別の評価の詳細を記載しております。

加えて、２２ページ目以降が第５期中長期目標期間の実績評価に関するもので、構成は同様となっておりますが、これらは大部となりますので、恐れ入りますが説明は割愛させていただきます。

事務局からの御説明は以上でございます。

【橋本会長】　ありがとうございました。

ただいまの御説明につきまして、御質問・御意見などがございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

【森田委員】　私の勘違いだったら申し訳ないんですけど、３ページのフロンティアサイエンス分野のＳ評定って、Ｓでしたっけ。この上の表、その前のページの表から見るとＡなんですけど。

【浅川補佐】　失礼いたしました、３ページが誤っておりまして、２ページ目が正しい評定でございますので、こちら訂正させていただきます。申し訳ございません。

【森田委員】　そうですよね。

【橋本会長】　それでは、こちらはA評定ということで修正させていただきます。私も確認しておりましたが、見落としておりました。失礼いたしました。

ほかに御意見はいかがでしょうか。生越委員、お願いいたします。

【生越委員】　同じく３ページのところで、その他で「知的財産については国内のみならず、外国特許の取得・活用及び海外企業への技術移転を強化すること」とあります。また、本日も日本政府から、企業に対して知的財産を取るようにという方向性が出ています。しかしそれはあくまでも、日本政府が戦略として知的財産を取って、どのように移転するかを考えなければいけないということです。例えば日本企業が日本政府が保有する特許技術を活用して海外でビジネス展開したいときに、日本政府が先に海外企業に技術移転をして日本企業の邪魔をしたら意味がない。だから、国家戦略のニュアンスを付け足して書いたほうが、より正しく伝わるんじゃないかと思いました。

以上です。

【橋本会長】　事務局から、いかがでしょうか。

【浅川補佐】　コメントありがとうございます。いただいた御意見を踏まえて、大臣評価も含めて調整させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【生越委員】　ありがとうございます。

【橋本会長】　ありがとうございます。では、国のほうの戦略を考慮するといった観点を入れていくということを修正していきたいと思います。

それ以外、いかがでしょうか。

それでは、令和７年度及び第５期中長期目標期間におけるＮＩＣＴの業務の実績に関する評価に対する意見につきましては、本日の審議結果を踏まえて取りまとめをすることといたします。具体的な修正内容は、別途、事務局において調整いただき、最終的な取りまとめを会長である私に一任いただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【橋本会長】　ありがとうございます。それでは、そのように進めることといたします。

なお、ＮＩＣＴの最終的な評価結果については、後日、事務局から委員及び専門委員宛てにお知らせいただきたいと思います。

令和７年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価に対する意見（案）について

【橋本会長】　それでは続きまして、議題（２）令和７年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価に対する意見（案）について、事務局より説明をお願いいたします。

【佐々木補佐】　資料国研２５－２を御覧ください。ＪＡＸＡについては、令和７年度の業務実績評価について御審議いただくことになります。

本意見を取りまとめるに当たりましては、本審議会のＪＡＸＡ部会の先生方を含めて、４府省合同ヒアリングを実施しております。その上で、ＪＡＸＡ部会を７月１６日に開催いたしまして、意見案の取りまとめを行っていただいております。藤野部会長をはじめ、部会の先生方には改めて御礼申し上げます。

また、皆様御存じのとおり、ＪＡＸＡは、総務省、内閣府、文部科学省、経済産業省の４府省での共管となっております。そのため、本日お取りまとめいただく国研審の御意見については、ほかの３府省と協議した上で最終的な主務大臣の評価という形で決定することになっておりますので、御承知いただければと思います。

資料国研２５－２の全体の構成について御説明したいと思います。１ページ目にて、ＪＡＸＡ部会での評定案を一覧で示しております。２ページ目で、令和７年度の御意見案の概要を記載しております。３ページ目以降では、個別の項目について御意見案を記載しております。

それでは、１ページ目から御説明したいと思います。まず最初に、令和６年度の業務実績評価と比べて、評価する項目数が２７項目から７項目に大幅に減っていることについて御説明したいと思います。

こちらについては、表の下に注記で記載しておりますが、第５期中長期目標を定めるに当たって、２７項目から１９項目に項目数を減らしております。さらに、「Ⅰ.１.宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクト及び研究開発の実施」、「Ⅰ.５.宇宙航空政策の目標達成を進めるための取組」については、こちらの表の記載のある「Ⅰ.１.１宇宙安全保障への貢献」のような細かい単位では評価せずに、Ⅰ.１、Ⅰ.５といったまとめた単位で評価することとしております。結果として、こちらの表の一番右の列を御覧いただくと分かるとおり、令和７年度の業務実績評価では、ＪＡＸＡ部会で評価する項目数が７項目となっております。

次に、こちらの表の見方ですが、評価項目名の列に第５期中長期目標の章立てを記載しております。なお、Ⅰ.４については、文科省専管事項となっておりますので、総務省、ＪＡＸＡ部会では評価を行っておりません。そのため記載を省いております。

続いて、右隣の列のＪＡＸＡ自己評価についてですが、ＪＡＸＡ部会にて、ＪＡＸＡの自己評定が妥当であるかどうかの御意見は付けないものの、参考情報として、小項目単位でＪ

ＡＸＡが付けている評定についても記載しております。大項目の列が評価する単位でのＪＡＸＡの自己評価、意見案の列がＪＡＸＡ部会での御意見案となります。

結果としては、御覧いただいているとおり、ＪＡＸＡの自己評定はいずれもＢとなっており、ＪＡＸＡ部会の御意見案としても、その自己評定の結果が妥当であるというようになっております。

なお、第５期中長期期間における業務実績評価から、ＪＡＸＡは世界の研究開発水準を十分に上回る成果が期待されていることを踏まえて、自己評価における評定の基準を前中長期期間よりも引き上げております。

結果として、令和６年度の業務実績評価では、評価する項目の過半数がＡ以上だったのですが、今回はいずれの項目もＢという結果になっております。

それでは、次のページの説明に移りたいと思います。主な意見の概要としては、３点挙げております。最初の２つは総務省と関係が深い項目ということで、「Ⅰ．１.宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクト及び研究開発の実施」と、「Ⅰ．３.宇宙戦略基金の活用」を挙げております。３つ目としては、ＪＡＸＡ部会内で多くの御意見が出た項目として、「Ⅰ．５.宇宙航空政策の目標達成を支えるための取組」を挙げております。

Ⅰ．１については、宇宙安全保障、地球観測、通信、測位、宇宙科学探査といった領域で評価できる事例は複数あったものの、宇宙輸送におけるＨ３の打ち上げ失敗というマイナス要素もあり、総合的に勘案した結果、全体としてＢ評定は妥当であるという御意見になっております。

「Ⅰ．３.宇宙戦略基金の活用」については、宇宙戦略基金の運営基盤整備及び支援体制構築が着実に進められているということで、Ｂ評定は妥当であるという御意見になっております。

「Ⅰ．５.宇宙航空政策の目標達成を支えるための取組」については、国際協力の領域で高く評価するという御意見がございました。人材育成の領域では、様々な取組がなされ、一定の成果を上げておりますが、今後もこれまでのアプローチのままでよいかは検討する必要があるという御意見がございました。ほかの多くの領域については、計画が着実に実施されているということで、総合的に勘案して、全体としてＢ評定は妥当であるという御意見になっております。

法人の全体評価に関する意見の概要についてですけれども、２０２５年度は基幹ロケットの不具合などにより打ち上げ件数が減少していることは否めない一方で、「Ⅰ．１．２地球

観測・通信・測位」、「Ⅰ．１．３宇宙科学探査」などの分野では顕著な成果があったという御意見がございました。

また、「Ⅰ．１.宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクト及び研究開発の実施」は、宇宙輸送を除き、高く評価できる。「Ⅰ．３.宇宙戦略基金の活用」については、着実に立ち上げ、特に大きな問題なく運営を開始した点も評価できるという御意見がございました。

なお、先ほどのＮＩＣＴの資料では、資料の上のほうに全体の評定に関する記載がございましたが、ＪＡＸＡの全体の評定につきましては、４府省協議の上決定することになっておりますので、記載しておりません。

以降のページは細かい個別の項目の内容になりますので、御説明は割愛させていただきます。

私からの説明は以上となります。

【橋本会長】　ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、御質問・御意見などがございましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。

【末松委員】　ＪＡＸＡの評価のときにはこれでいいかなと思っていたんですけれども、今回改めてＮＩＣＴさんの評価結果の後にこれを見てしまうと、どうしてもこの評価が、片方はほとんどＳで片方は全部Ｂという形で、本当にそこまで業務の質に差があったのかなというところをちょっと感じるところがありました。

いずれも大臣評価として公表されると思いますが、その際に、両法人の評定の差があまりにも大きいのではないかと感じています。ただ、評価の中身については、当然議論はちゃんとやってきたので中身はいいと思うんですけども、評価の仕方、今回ＪＡＸＡのほうが非常に厳しめな評価をしたと御説明いただいていますが、将来的に少し合わせる方向に変えたほうがいいのではないかなと思っております。

以上です。

【橋本会長】　ありがとうございます。実は私も同じように感じておりました。

こちらにつきまして、よろしいですか、事務局から何か御意見ありますでしょうか。

【浅川補佐】　ありがとうございます。本日の御議論は、国研審としての意見をいただくものでございますので、まずそれを受け止めさせていただきます。

【寺岡課長】　今御指摘いただいた点、我々もその２つを並べてみると、その点、そうだなと感じているところがございます。他方で、それぞれの研究機関が対象としている研究の

内容やフェーズが違うところもございますので、一概に基準を全く同じにするというところはなかなか難しいかと考えております。他方で、ＪＡＸＡさんのほうは、昨年度のところから少し評価を見直していくという御指摘もされているかと思いますので、ＮＩＣＴも今回その点を記載した上で、来年度以降の評価というところをこれまでも厳密に評価していただいておりますが、今後はさらに評価の厳密性を高めるとともに、法人間の整合性やJAXAの評価方法も参考にしながら、来年度以降の評価の在り方を見直してまいりたいと考えております。

【扇課長】　御指摘ありがとうございます。今寺岡から申し上げたとおりのことかなと我々も思っておりまして、ＪＡＸＡの場合、ＮＩＣＴと比べても非常に予算も人員規模も多いというところもございますので、同じ国立研究開発法人ということではございますけれども、幾分差が出てしまうというところはやむを得ないところかなと思ってございます。

ただ、その上で、おっしゃるように、どこまで違いがあるのかというところはあろうかと思いますので、御指摘のとおり、今後、どういう調整の仕方があり得るかというのは改めて検討させていただければなと思ってございます。

【橋本会長】　ＮＩＣＴの議論においても、Ｓ評定とＡ評定の判断については様々なご意見がありました。資料25－1の６ページにも記載されているとおり、次年度は第６期中長期目標期間の初年度となりますので、今後の評価の在り方についても見直しを検討していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【生越委員】　この評価の変更について、ＪＡＸＡの委員会の中でも大分皆さん戸惑いがあったと思います。ただ、ＪＡＸＡの場合は、ＮＡＳＡとかほかの国際機関との比較もあるので、今までが本当に国際的なスタンダードだったのかという、そこら辺の見直しも入ったんだと思います。

やっぱり評価書は、日本独自の評価基準から国際的な評価基準を見据えて変えていかなきゃいけないと思うので、来年以降、ぜひそういった観点もよろしく御検討ください。

【橋本会長】　ほか、いかがでしょうか。

【藤野会長代理】　御議論いただきましてありがとうございました。私どももＪＡＸＡのこの自己評価を見たときに、ちょっと驚いたというのは実際の話のことでございますが、いずれにしましてもヒアリングを進めていきますと、やはり世界的な成果というのをどういう具合に位置づけるかというところに話が結局戻ってくるという形になりまして、ＪＡＸＡに関しては、そういう意味では、第５期の開始に当たり、評価基準を引き上げるというよ

うな方向で一応ＪＡＸＡのほうで言ってきましたときに、我々としても、そういう意味では、そういう具合に厳しくされるのであれば、我々としてもきちんとやりましょうという話でやってきたところでございます。

重要なのは、第５期の開始にあたり、それ以前の評価とは単純に比較できないという点です。さらに第５期中は、厳格化した評価基準を変えないことが必要であると考えております。一旦、第５期の開始に当たり、こういうような評価をという形でございましたので、これを少なくともこの中期の間は維持していきたいという具合に考えているところでございます。

【橋本会長】　ほかに御意見のある先生方、委員の先生方、いらっしゃいますでしょうか。

【永山委員】　御説明ありがとうございました。それぞれの法人でそれぞれの基準に基づいて吟味されて今回評価が出てきていると思うのですが、先ほど御意見ありましたように、やはり国民の目から見たときに、ＪＡＸＡさんとＮＩＣＴさんでこれだけ違う評価が並んでいますと、国民の側が戸惑われる可能性もあるかなと。同じように公費を投入し、それなりに世界レベル、もちろんＮＩＣＴさんも世界レベルの研究を目指されていると思いますので、そういった同じような一線の研究者の方たちが頑張っておられる法人で、ＳとＢとみたいな形で大きな差があるというのは戸惑われる可能性もあると思いますので、これは個人的な意見ですけども、先ほど事務局からも御説明ありましたように、外から見たときに戸惑われないような形で、それぞれの評価基準をつくっていただいて、そして、外から見たとき、こういった法人に対して国が支援をしていくということに対して、妥当だな、きちんと評価されているなというのが分かるような形にしていただければなと思いました。

以上です。

【橋本会長】　ほかに御意見のある委員の方、いらっしゃいますでしょうか。

【小塚専門委員】　委員の先生方がひと通り御意見をおっしゃったので、専門委員として言わせていただきます。今の論点とは別ですけれども、ＪＡＸＡ部会では、事務局説明にもありました小項目についての評価が今期からなくなって、大項目だけになったということで、それに対する思いといいますか、意見もあったところです。

ただ、これは、ＮＩＣＴのほうは前からそうだったようで、小項目について自己評価は出ているけれども、審議会としては大項目で評価するということのようですので、その辺り、法人側に対するフィードバックの仕方ですね、委員の、小項目それぞれについて意見や考えがあるところを、評価のＡとかＢとかとは別に、小項目について伝えていく、そういうやり方というのは、むしろＮＩＣＴ部会のほうからＪＡＸＡ部会にノウハウを共有していただ

けるところもあるかと思いまして、もしＮＩＣＴ部会で従来こう行ってきたというようなことがあれば、今この場という意味ではありませんけれども、ぜひ御共有いただければと思った次第です。

【浅川補佐】　事務局でございます。もともとの立てつけから御説明申し上げますと、ＮＩＣＴでいえば１０項目、これが中長期目標上も一つの事業の固まりということで、会計セグメントも、機構においてはそれぞれで対応しております。まずはこれが評価の対象とするものでございます。その上で、さらに細かい技術分野において、ＮＩＣＴも自己評価されておりまして、この分野それぞれについても個別にヒアリングいただいた先生方については、詳しく評価、コメントをいただいてございます。評価書にはそれぞれ詳しく書いてございますし、併せて、全体といたしましては、先ほど簡単に御説明いたしましたけれども、よりしっかりと取り組んでいただきたいことであるとか、高く評価する部分、コメントも部会でいただいておりますので、それを評価書において記載しているというようなことになってございます。

【橋本会長】　それでは、活発な御議論をいただきましたが、ＮＩＣＴの次年度以降の評価については、先ほど事務局からも御説明がありましたように、評価の在り方について見直しを検討していくということになったと思います。

この文書の意見案については、特段の修正は必要ないものと理解しておりますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、令和７年度におけるＪＡＸＡの業務の実績に関する評価に対する意見については、この案のとおりに取りまとめることといたします。また、総務省においては、関係府省との調整等を進めていただくようお願いいたします。また、ＪＡＸＡの最終的な評価結果については、後日、事務局から委員及び専門委員宛てにお知らせいただきたいと思います。

閉　　会

【橋本会長】　ありがとうございました。それでは、本日公開させていただく議題は以上となります。

そのほか、全体を通して何かありますでしょうか。

では、事務局から何かありますか。

【浅川補佐】　本日の御審議、誠にありがとうございました。本日の御審議を踏まえまして、関係府省とも調整の上、今後、評価の取りまとめ作業を進めていきたいと思います。

また、ＮＩＣＴ及びＪＡＸＡの最終的な評価結果については、それぞれ主務大臣の意見として取りまとめ、８月下旬以降に公表を予定しております。最終的な評価結果については、別途、事務局より御連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本日の議事録については、後日、事務局から確認をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

【橋本会長】　ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして第２５回総務省国立研究開発法人審議会を終了いたします。皆様、ありがとうございました。

（以上）